

「用語」を知って「数字」の意味を知る

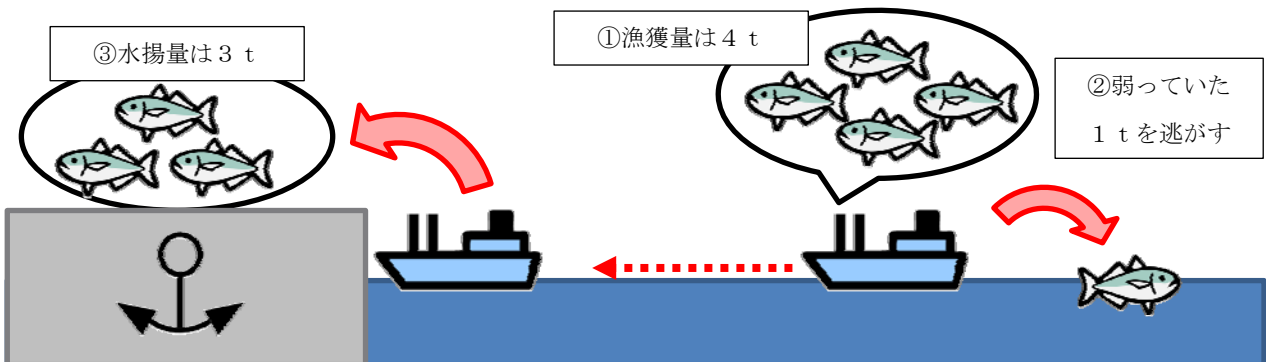
～よく似た用語の違いについて～

My しずおか日本一ではたくさんの日本一について紹介をしていますが、統計の中には良く似ているけれど意味が違う用語が存在します。「同じような記録なのにどうして言い方が違うんだろう？」と疑問に思っていた方はこのコラムを読めば、疑問が解決する…かもしれません。なお、ここで紹介している説明はあくまで一般的なものであり、出典の統計で詳しく定義している場合がありますので、その場合はそちらの説明を参考にしましょう。

1 漁業における「漁獲量」「水揚量」「収穫量」の違い

漁船が獲得した魚全ての量が「漁獲量」であり、港に揚げられた魚の量が「水揚量」になります。漁獲量も水揚量も等しくなるのが普通ですが、港に持ち帰る前に価値が無いと判断され（小さい、傷んでいる等）、海上に投棄された場合、水揚量が少し減ることになります。また、食べられない部分を海上に投棄した場合や、漁師が海上で食べてしまった場合も差異が生じます。

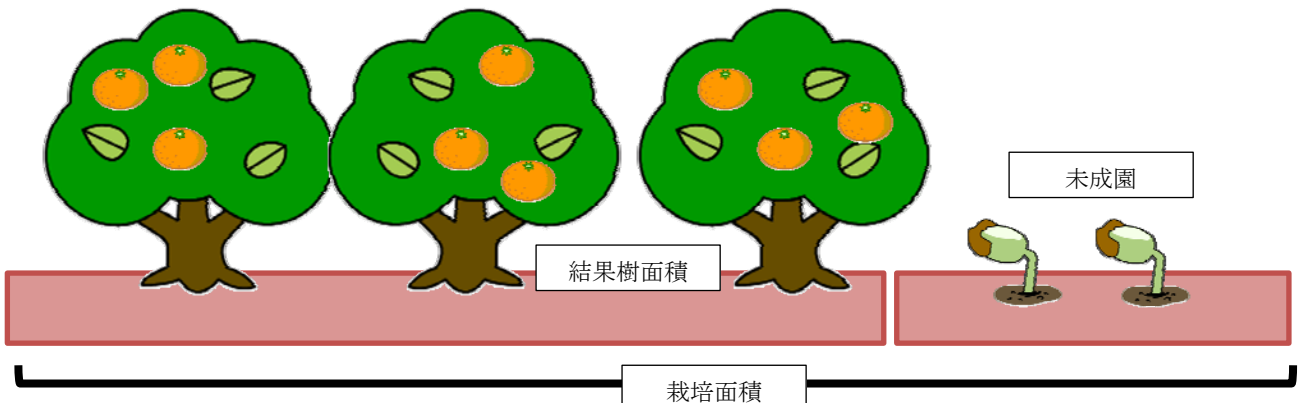
なお、漁業における「収穫量」とは養殖によって獲得した水産物の量のことです。



2 果樹農業における「栽培面積」と「結果樹面積」の違い

「栽培面積」とは、果樹が植栽されている全体の面積であり、「結果樹面積」とは果実を収穫できる樹が植栽されている面積のことです。栽培面積には、まだ実を付けることができない植えたばかりの樹が植栽されている面積が含まれています。畑で育てる野菜とは異なり、果樹は植えてから何年か経過しないと実をつけない場合が多いので、栽培面積と結果樹面積には差がでます。

なお、まだ果実が実らない園地のことを未成園と呼びます。

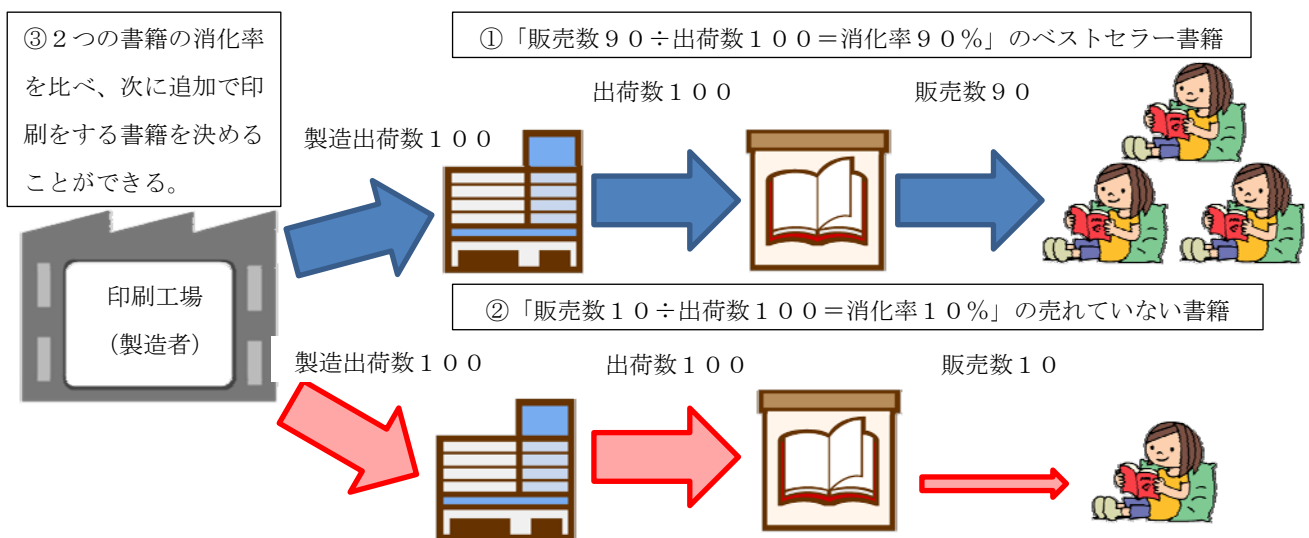


3 製造業における「出荷数」と「販売数」の違い

「販売数」というのはお店でお客さんが購入した数です。これに対して「出荷数」とは問屋やお店に対して売った数であり、実際にお客さんが購入しているかは関係ありません。

「販売数」を「出荷数」で割ることで商品の「消化率」が分かります。消化率が低く、売れていない商品の場合、お店が入荷してくれない（＝問屋も入荷してくれない）可能性があるため製造者は生産を控えます。逆に過去に高い消化率で販売できた商品はお店が追加で入荷してくれるかもしれないので、製造者は売上を伸ばすチャンスであり、積極的に追加の生産を行います。例えば書籍の奥付に書いてある「第〇版第×刷」の第×刷の部分が多い書籍は何度も追加で印刷された人気の本ということです（「第〇版」の部分は書籍の内容に修正が入った時に増えます）。

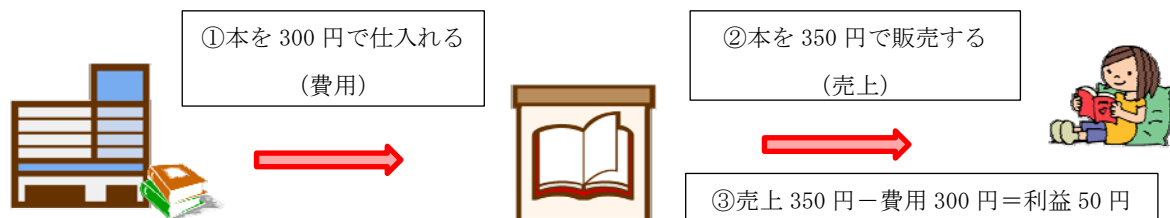
なお、“製造者から問屋に対する出荷”を“問屋からお店への出荷”と分けるために「製造出荷数」と呼ぶ場合があります。



4 会計における「売上」と「利益」の違い

「売上」とは商売によって手に入れたお金を表し、売上を出すために使った費用を差し引いて最終的に残ったお金が「利益」（儲け）です。似ている言葉でも全然違いますね。

テレビで「起業2年で100億円の売上を産み出した若手社長の成功秘話！」というタイトルの特集を放送していた場合に、費用が99億9500万円掛かっており、利益は売上の1%にも満たない500万円ということもあるかもしれません。



いかがでしょうか？用語の意味を知ることによって、数字から正しい情報を引き出しやすくなります。統計データと言うと数字にばかり目が行きがちですが、統計データを利用する場合には、用語の意味を正確に理解することが重要です。